令和6年度 近畿農政局農業農村整備事業等事業評価技術検討会（第3回）
国営事業再評価議事概要

- 1 日 時：令和6年7月4日（木）14:45～15:25
- 2 場 所：ハートピア京都第5会議室
- 3 対象地区：国営緊急農地再編整備事業 亀岡中部地区
- 4 出席委員：藤原 正幸 京都大学大学院農学研究科教授
久野 秀二 京都大学大学院経済学研究科教授
岩間 憲治 滋賀県立大学環境科学部准教授
川村 幸子 京都府生活協同組合連合会理事
古谷 千絵 ジャーナリスト

5 審議内容

（1）再評価地区別評価結果（案）について

【国営緊急農地再編整備事業 亀岡中部地区】

（委員）

第1回及び第2回の技術検討会で各委員から出された、地区別評価結果書（案）に対する意見への回答、関係団体への意見聴取結果、それらを踏まえた更新状況について審議を行い、「技術検討会の意見」の取りまとめを行う。

（委員）

評価項目のまとめ（案）の赤字部分で、「京都府、亀岡市及び亀岡中部土地改良区からは」という主語がどこまでかかっているのか分からないので、文章を修正されたい。

（農政局）

修正する。

（委員）

亀岡市の集落営農数の増加率について、16%と記載があるが、19%では。評価項目のまとめ（案）と合わせて修正されたい。

（農政局）

誤りである。修正する。

(2) 技術検討会の意見について

本地域は、京都市から JR 嵯峨野線で 30 分程度に立地する亀岡市の比較的平坦な水田地帯にあり、昔から京野菜の供給基地としても知られている。亀岡市には一級河川桂川が流れており、河川水やため池を活用した農業が営まれる中で、希少な動植物が生息するなど自然豊かな環境が残されている。一方、耕作放棄地の面積の増加、農業従事者数の減少が進んでおり、将来の食料供給基地として農業の維持、農地の保全及び効率的な農作業の実現が喫緊の課題となっていた。

このため本事業は、未整備ほ場の区画整理、用排水路の整備、担い手への農地の利用集積による生産性向上等を図るため、平成 26 年に着手されている。現在まで 6 工区のうち 5 工区の区画整理に取り組みされており、そのうち 1 工区は完了している。区画整理が完了した地域では、集落ぐるみの農業生産法人が設立され、多角的な経営や規模拡大への取組みが開始されている。また直売所が地域内に設置され、多くの地域住民と都市住民が農産物の購入に訪れている。

このような中、令和 5 年 2 月、亀岡市は次世代を担う子どもたちに豊かな自然と食、農を引き継ぐためにオーガニックビレッジ宣言を行い、有機農業を推進している。事業実施地区においても有機米の栽培を開始した農家がいる。また、京都府、亀岡市及び亀岡中部土地改良区からは、事業効果の発現による地域農業の持続的発展、一層のコスト縮減及び環境への配慮に努め、計画的な事業推進が望まれている。

以上を踏まえ、引き続き関係する京都府、亀岡市及び亀岡中部土地改良区と連携し、環境との調和を図りつつ、担い手への農地利用集積、一層の事業コストの縮減、早期の事業効果発現に取り組む必要がある。この事業を通じ、立地条件を生かして野菜等の高収益作物の生産振興がより一層進み、亀岡市のオーガニックビレッジ宣言等の取組みが発展していくことを期待したい。

以 上。